

## 集 tsudoi

兵庫の建築  
Architecture of  
HYOGOたつの市龍野伝統的建造物群保存地区  
祝！国の重要伝統的建造物群保存地区選定5周年

選定年 2019年

所在地 たつの市龍野町門の外

龍野藩五万三千石の城下町である、たつの市龍野伝統的建造物群保存地区（龍野伝建地区）が、令和元年12月、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されました。令和6年12月23日で国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて5周年を迎えます。選定されて間もなく、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい世界的に未曾有の事態となりました。度重なる緊急事態宣言の発令、外出自粛等多くの制限の中でも、コツコツと保存修理活動を地道に続けてまいりました。多くの試練の中で町並みの保存修理活動を継続できたのは、地域の皆様の熱意とご理解ご協力のおかげによるものです。心から感謝申し上げます。制限が解除されてからは徐々にではありますが観光客も増えつつあります。そんな中、龍野支部としても重要伝統的建造物群保存地区をまち歩き（案内）させていただく機会も増えつつあります。6月15日には阪神支部地域重要建造物見学会「たつのぶら」という企画で阪神支部、姫路支部の方々が来龍されました。



上川原



下川原



松龍山 如来寺

節目である5周年を迎え、保存修理事物も20件弱整いました。江戸時代に形成された町割りを残すとともに、軒が低く大壁造の古式な町家や醸造等に関わる重厚な土蔵等をよく残し、中世を起源とする西播磨の城下町としての町並みをより一層、保存修理に協力し皆様と共にタイムスリップした空間のまち歩きを楽しんでいきたいと思います。

文・写真：江藤 康弘（龍野支部）



浦川周辺

目次	P.1	兵庫の建築・たつの市龍野伝統的建造物群保存地区
	P.2	「建築士の日」事業報告
	P.3	令和6年度 地域重要建造物見学会 まちあるき in 龍野
	P.4	災害対策委員会活動開始報告

## メール配信と名簿のご案内

「集 tsudoi」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



## ■旧加古川町公会堂記録映像上映会・座談会 ～まちと建築の響き合い～

昨年、「建築士の日」事業として、当会初代会長、置塩章設計の旧加古川町公民館の見学会を実施し、多くの建築関係者、加古川市民の方々にご参加いただきました。ただ耐震性の関係上、限られた方のみが見学が可能であったことが、心残りではありましたが、より多くの方々にこの建物を知っていただける機会はないかと思案していたところ、映像作家の若林あかね様が、この旧加古川町公民館の記録映像を作成していることを知りました。

若林あかね様は高島屋東別館や栗原邸、また置塩章設計の旧神戸移住センターなどの近代建築の名作の記録映像を作成されている方です。そこで、本年度の「建築士の日」事業は、この記録映像を皆さまに見ていただき、あわせて、これをテーマに座談会を行うことを企画しました。

そして会場は新館がまさに置塩章設計の旧生糸検査場、現在は KIITO (デザインクリエイティブセンター神戸) として再生された建物とし、古い建物が再生された姿を見ていただくことも意図しました。

座談会のゲストは、昨年講師をお願いした京都工芸繊維大学の笠原一人様、兵庫県庁出身で創造遺産機構理事の金野幸雄様、コーディネーターには今年の神戸モダン建築祭の実行委員長であるスタジオ・カタリストの松原永季様、と錚々たるメンバーをお迎えしました。



意見交換会



上映会風景

上映会は若林あかね様のプロフィールと作品説明で始まりました。多くの近代建築の名作との出会いや映像作品化へのきっかけなどをお話いただいた後、記録映像の上映となりました。

記録映像は、地域の方々を含む多くの関係者へのインタビューが中心の、濃密で感動的な作品です。この映像は、若林様のご厚意により一般に公開されているので、ぜひご覧いただけたらと思います。(下記 URL 参照)

座談会は松原様の進行で笠原様、金野様からお話を聞きました。お二人とも映像作品の中でお話をされており、建築史家と、建物活用のプロデューサーと異なった立場からのコメントで大変含蓄のあるものでした。

その後は、会場参加者との意見交換ということで、映像作品に参加いただいた方々、建築・都市の専門家、また置塩章のお孫様である置塩進様、美津子様夫妻にも、様々な興味深いお話をいただきました。

旧加古川町公民館は現在、サウンディングにより広く活用の可能性を探っているところです。

この度の上映会では、81名の方がご参加いただき、上映会・座談会を通じて、この建物が多くの地域の方の記憶に残る原体験の場であることや、また古い建物がクラウドファンディングなど新しい手法で活用の可能性が広がっている現状を知ることができました。

建築士会としても、今後の保存や活用に少しでも力添えできればと思います。



座談会

記録映像URL: [https://www.youtube.com/watch?v=zp\\_BLBAG9k0](https://www.youtube.com/watch?v=zp_BLBAG9k0)

## ■「建築の日」開催概要

- 日 時 : 令和6年6月30日(日) 14:00～16:30
- 会 場 : KIITO(デザインクリエイティブセンター神戸)303号(神戸市中央区小野浜町1-4)
- ゲ ス ト : 京都工芸繊維大学准教授 笠原 一人 創造遺産機構理事 金野 幸雄  
スタジオ・カタリスト代表取締役 松原 永季 映像作家 若林 あかね
- 対 象 : 一般市民
- 参 加 者 : 81名(うちスタッフ10名、取材記者2名)
- 内 容 : 旧加古川町公会堂記録映像上映会及び座談会、意見交換会

文：横本 光展 (研修委員会) 写真：森川 弘樹 (加古川支部)



## ■「たつのぶら」記録

たつの市内を流れる揖保川の西岸にある、重要伝統的建造物群保存地区を中心に、まち歩きを行いました。龍野支部でまちづくり委員長でもある岸野氏に、ルート設定や建物見学先の調整などの準備段階から当日の案内まで、ご協力をいただきました。

### ●龍野のまちなみ

下川原、川原町等の道路は、戦後の道路拡幅のため、軒切りされている庇が多く見られました。

昔は舟運がメインで船着き場のあった辺りはかつてまちの玄関口で、その場所にある当時珍しい3階建ての建物は、解体される直前で有志の懸命の説得で保存されました。



軒切りと道路境界線との関係の説明を受ける

### ●浅井家住宅

浅井家住宅は、浅井醤油の3代目当主浅井關三氏が建てた自邸で、隣の旧秋武邸とともに外壁の修景工事が既に行われて、今年度より内部改修が始まっていました。浅井家住宅の2階からは、揖保川東岸にあるヒガシマル醤油工場が一望できるようになっており、1階と2階で同じ間取りですが、別の大工を競わせ、趣が違うように作らせたのも特徴の一つです。

### ●重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）と歴史的景観形成地区（景観形成地区）

歴史的景観形成地区の武家地ゾーンは道路幅も比較的広く、主に昔、庭や門、塀のある武家屋敷が多い場所で、一方、重伝建地区は建て詰まった町家が多かった旧町人地となっています。その境となる道路には、武家地ゾーン側に石垣が詰められレベルが高くなっていました。地区の経緯としては、景観形成地区が広範囲で指定された後、近年、旧町人地の辺りが重伝建地区となりました。



龍野城の埋門前 集合写真

### ●堀家住宅

堀家は一橋徳川家の庄屋をつとめた豪農で、主屋1棟、座敷2棟、蔵12棟など、計23棟が敷地内にあり、大半が江戸時代のもので、かつ現在も住まいとされている全国的にも貴重な国指定の重要文化財です。

当主の堀さんに案内していただきました。揖保川に面している西側は米蔵が並ん



堀家住宅 玄関の間は吹き抜けて大きな梁が特徴的

でおり、オウラ北門を抜けた北側は、生活用の蔵や裏座敷がありました。

見学後は堀さんと岸野さんから、話を伺いました。時間と労力と資金がかかるため、また、重文で「住んで守っていききたい」という強い意志を持っておられるので、世代を超えて受け継がれるように、敷地内のいくつかある建物を計画的に進めていくということです。

今後は見学やイベントの回数を増やし、まちの活性化に向けて、浅井家住宅とともに利活用に取り組んでいきたいとのことです。

- 開催日： 令和6年6月15日（土）
- 開催場所： 龍野のまちなみ、浅井家住宅、堀家住宅、重伝建地区、景観形成地区など
- 参加人数： 29名

文・写真：山本 和代（阪神支部）※集合写真除く

## ■災害対策委員会がスタートしました

先ず、この度の能登半島地震により被災されました皆様、並びにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興、そして被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

さて、(公社)日本建築士会連合会の方針を受け、(公社)兵庫県建築士会では2023年10月に「災害対策特別委員会」を立ち上げ、今年度からは専門委員会のひとつとなりました。初期の目標は、“平常時の防災及び発災時に組織的に対応する”ためのネットワークづくりを進めるものとし、各ブロックの代表支部長さまに地域の代表として協力を得る形で委員会がスタートしました。(下記「委員紹介」欄)

しかし、その後1月には能登半島地震、7月には山形・秋田の大洪水など災害が頻繁に発生しております。災害対策委員会は、色々な課題に対応すべく活動を進めて行かなければと強く感じるところです。

大きな活動の考え方としては、

【発災時】・・・『組織体制の再構築』・『広域災害対策』活動

【平常時】・・・『普段づきあい』活動・『事前の備え』活動

【発災後】・・・『被災者・被災建物の支援』活動

と部会を順次立ち上げながら、他の委員会や会員各位、将来の建築士、大学の先生方、建築以外の専門家、小中高大の児童生徒学生さん、市民住民の協力を得て活動を広げていきたいと思っております。建築士・建築士会として何が出来るかを皆さんで考えて行きましょう!

文：渡邊 一洋 (災害対策委員長)

## ■委員紹介

	役職	担当・ブロック・支部名・委員会名	氏名
	統括	副会長	西嶋 宣久
	補佐	副会長	岡崎 雅彦
1	委員長	まちづくり防災担当	渡邊 一洋
2	委員	神戸ブロック(神戸支部長)	佐々木 博司
3	委員	阪神ブロック(阪神支部長)	廣瀬 克也
4	委員	東播ブロック(加古川支部長)	小西 敏文
5	委員	西播ブロック(姫路支部長)	石原 弘一
6	委員	但馬ブロック(豊岡支部長)	林 勤
7	委員	阪神ブロック(淡路支部長)	榮 宏之
8	委員	総務委員会	山本 幸治
9	委員	企画情報委員会	阪口 晴彦
10	委員	研修委員会	楨本 光展
11	委員	まちづくり委員会	岸野 裕児
12	委員	青年委員会	高麗 憲志
12	委員	女性委員会	有賀 芳子
14	委員	歴史的建築物委員会	森崎 輝行

## <災害対策関連事業告知>

### ■阪神・淡路大震災 30 年記念事業の告知

#### ■企画の背景

阪神・淡路大震災から、30年を迎えます。この間には、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震など、各地で甚大な災害が発生しており、今後も南海トラフ地震など、いっどこで大規模地震が起こるかわからない状況にあります。このような状況下において30年という節目を迎えるにあたり、今一度今後の震災対応について理解を深める時であると考えています。

#### ■事業の目的・趣旨について

基本コンセプト：震災対応を新しいステージへと導く

阪神淡路大震災後に発災した全国各地の大震災の経験を踏まえ、今建築士にとって震災対応として何が出来るのか立ち止まって熟考する機会とし、この30年間に培った知見をもとに新たな対応へと進む事が出来る、研鑽、学びとなる事業としたい。また、この事業を通じて、建築専門家の職能集団である建築士会として、先を見据えた提言を広く兵庫県下の県民に発信していきます。

#### ■事業概要

事業名：(社)兵庫県建築士会 阪神・淡路大震災 30 年記念事業

開催日：令和 7 年 1 月 2 5 日 (土) 開催予定

テーマ：震災対応 新時代へ

～全国の地震被害から学んだ教訓の継承と発信～

講演者：室崎 益輝 氏

### ■青年委員会連携事業の告知

#### ■事業概要

事業名：防災・街歩き

開催日：1 2 月 1 日 (日) 開催予定

人と防災未来センター (神戸) と津波・高潮ステーション (大阪)

の2か所を巡って、都市防災を考えます。